

宇宙・電磁環境研究センター

特徴

本センターは、宇宙および地球における電磁環境の観測および利用に関する教育研究を行うことを目的としています。1968年の開設以来、いろいろな電波観測手法を通じて宇宙や地球惑星の電磁環境に関する研究を行っています。また、VHF帯およびUHF帯の人工衛星追尾受信システムを所有しており、それをを用いた衛星追尾の実習教育や宇宙通信関連の研究など、国内の他の大学では例を見ないユニークな教育研究もを行っています。また、観測所には宿泊施設が併設されています。

SSIE-1 電波で探る超高層(高度90~1000km)の乱れ構造(富澤一郎研究室)

11月19日(金)、20日(土)、21日(日) 13:00~17:00

西2号館5階509号室

地上からの高度90~1000kmの超高層領域は、中性大気とプラズマが混在することから電離圏と呼ばれています。中性大気側は下部の対流圏・成層圏・中間圏へと、また、プラズマ側は上部のプラズマ圏・磁気圏とつながっていますので、非常に多様な乱れを起こします。この乱れの空間的・時間的構造を、短波電波やGPSなどの測位衛星電波を使って調べています。この研究に使用する観測システムや研究結果について紹介します。

http://ssro.ee.uec.ac.jp/lab_tomi/index_j.html